
カゼヒキコクハクサン

改樹考果

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

カゼヒキコクハクサン

【Nコード】

N5887F

【作者名】

改樹考果

【あらすじ】

風邪を引いて休んだクラスメイトの彼女。彼はプリントを届けに彼女の家を訪れ……何故か彼女の看病をする羽目に。そして、

(前書き)

最初の短編小説『コクハクノアサレン』と同系統の話ですので、二番目の短編小説『ダレモシラナイコクハク』の様な作品を待ってる方は、次作にご期待下さい。

彼

「くちゅん！」

彼女が可愛らしくくしゃみをした。

「くちゅん！くちゅん！」

くしゃみを連続でした為、濡れたタオルが落ちた。

……俺はちよつと迷って、落ちたタオルを取り、温かくなってたので、バケツに入った水にタオルを入れ、絞って彼女の額に乗せた。
……てか、冷え冷えシート（冷却ジェルシート）はないのか！
？冷え冷えシートは！……ああ！もう！何で彼女とは只のクラスメイトなのに、こんな事になってんだ俺？

……そもそも、欠席した女子に何で近いからって俺がプリントを持ってかなきゃいけない？さらに言えば、大事な用が出来たらって、風邪引きの娘を置いて母親が家を空けるか？しかも、偶々出掛ける直前にプリントを届けにきた俺に看病を任すか？……
不用心過ぎるだろ？あなたの娘は年頃の娘さんで、俺は年頃の男ですよお母さん……。

「はあ……」

思わず出た深く大きな溜め息。

その溜め息に……彼女が俺にボーっとした視線を向けて……驚いた顔になった。

「あれ？何で？」

……どうやら今の今まで俺が看病している事に気付かなかつたらしい。

まあ、かなりの熱みたいただから、意識がはつきりしていないんだろ。仕方がないちゃ仕方がないが……。

「あゝこれって……夢？」

夢じゃないけど……まあ、その方が都合はいいかな？……この状

況、なんて説明したらいいかわからない。

「……………じゃあ……………夢なら、言っちゃってもいいよね？」
何を？

「あなたが好きです」

……………はああ！え！え！？ええええええ？？？？
唐突な告白をした彼女は、それで満足したのか、目を閉じて、静かな寝息を立て始めた。

おいおいおいおい。そりゃないんじゃない？あ！誰かと勘違いしてるんだ。うん。そうに違いない。

じゃなきゃ、クラスメイトとは言え、そんなに接点のない彼女が俺になんか告白するはずが……………お？

動揺して、思わず部屋を見回すと……………勉強机の上に、俺の写真が入った写真立てがあるのに気付いた。

絵が荒いから、多分、クラスの集合写真を拡大した写真なんだろうけど……………マジですか？

……………そう言えばふっと思いついたが……………俺に看病を押し付けて出掛けた彼女の母親が、出掛ける際にかにもしてやったりって感じの笑みを浮かべてたような……………考えて見えば、俺にプリントを持ってく様に頼んだクラス委員の女子も……………そんな顔をしてたな……………

…確かクラス委員と彼女って友達だったな……………どうしよう？

彼女は夢と思って、俺に告白した。

って事は、俺が告白を聞いてしまったって事を彼女は知らないって事だ。

……………これからどんな顔して彼女に会えばいいんだ俺！……………何だか、俺まで風邪を引いたかの様に、顔が熱くなってきた。

彼女

「あなたが好きです」

自分が言った告白に、私は驚いてベットから飛び起きた。

慌てて回りを見回すけど、誰も居なかった。

その告白が、夢だと分かって、私はほっとして……額に何かが付いているのに気付いた……冷え冷えシートだった。

……お母さんが張ってくれたのかな？

……それにしても……夢とは言え……大胆だったな……私……

……現実でも、本当に告白出来ればいいのに……熱も引いたし、今日は学校に行けそうかな？

……どうしてこんな事になったんだろう？

目の前で、彼が苦しそうに息をしながら寝ていた。

学校に行くと、何故か彼が風邪を引いて休んでいて、何故か彼の家に私がプリントを届ける事になった。

友達は、

「チャンスよ！襲っちゃえ」

……つとか言ってたけど……病人相手に襲えますかってえの！……。つで、彼の家に来てみると、偶々彼のお母さんが急用で出かける所で……まだ、只のクラスメイトでしかない私が、彼の看病をする事になっちゃって……えっと、まだ赤の他人なんですけど……不用心過ぎませんか？

そう思いながら、私は温くなった濡れタオルを換えた。

……何で冷え冷えシートを使わないんだろう？

「っつ？」

交換したタオルの水を絞り切れてなかった見たいで……それで彼が起きてしまった。

「……何で彼女がここに？」

……何ででしょう？

「……夢だな」

……あれ？……なんかこのやり取り……

「昨日、彼女の告白を聞いたから」

っえ！？

「こんな夢を見るんだな……じゅあ、俺も、夢で返事をしなくちや……俺も、君の事が、好きだよ」

また風邪を引いたかと思った。

顔がこれでもかかってくらい熱くなる。

何だか涙が出てきた。

「……あれ？……あれ？……もしかして……夢じゃない!？」

「……はい」

彼の顔が赤くなったのは、多分、風邪だけのせいじゃないと思った。

『力

ゼヒキコクハクサン』終わり

おまけ

「あ!そつだ。これ……今日配られたプリ……ン……ト?」

「どうした?……って……『作戦成功。あなた達のクラス委員より』?」

「えっと……」

「礼を言うべきか……怒るべきか……」

「ですね……」

(後書き)

隔週で見ている漫画雑誌にて、風邪を引いている主人公の話がありまして……そこから思い付いた話です。弱っている状況なら、ポロっと本音が出てしまうかな……とか、色々考えて、こんな感じになりました。

ちなみに、色々企んで仕組んだクラス委員がちよつとしか出てこないのは……あまりにもキャラが強いので……削除しました。この話の主演は、あくまで彼と彼女ですからね……

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5887f/>

カゼヒキコクハクサン

2010年12月17日02時25分発行